

第 3 章

実践編【中学校】

中学校 性教育に関する各学年の主な学習内容

	第1学年	第2学年	第3学年
生命尊重	生命の尊さ (道徳科)		事例6 P.84
生物学的側面	心身の機能の発達と心の健康 (保健体育・保健分野) ・身体機能の発達 ・生殖に関わる機能の成熟 事例1 P.74	生物の体のつくりと働き (理科) ・生物と細胞 ・動物の体のつくりと働き	健康な生活と疾病の予防 (保健体育・保健分野) ・病原体が主な原因となって発生する感染症 ・発生源、感染経路、主体への対策による感染症の予防 ・エイズ及び性感染症の予防 事例7 P.86
	いろいろな生物とその共通点 (理科) ・生物の体の共通点と相違点		生命の連続性 (理科) ・生物の成長と殖え方 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化
心理的側面	心身の機能の発達と心の健康 (保健体育・保健分野) ・精神機能の発達と自己形成 ・欲求やストレスへの対処と心の健康		
	思春期の不安や悩みの解決、性的な発達の対応 (特別活動・学級活動)		
社会的側面	向上心、個性の伸長 (道徳科)		
	心身の機能の発達と心の健康 (保健体育・保健分野) ・成熟の変化に伴う適切な行動等 (異性の尊重、性情報への対処) 事例2 P.76	傷害の防止 (保健体育・保健分野) ・交通事故などによる傷害の防止 (地域社会で発生する犯罪が原因となる傷害とその防止)	私たちと現代社会 (社会科・公民的分野) 私たちと経済 (社会科・公民的分野) 私たちと政治 (社会科・公民的分野) 私たちと国際社会の諸課題 (社会科・公民的分野)
	心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 (特別活動・学級活動) 男女相互の理解と協力 (特別活動・学級活動) 事例3 P.78	事例4 P.80 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応 (特別活動・学級活動)	
	節度、節制・相互理解、寛容・家族愛、家庭生活の充実 (道徳科) 友情、信頼 (道徳科) 事例5 P.82 公正、公平、社会正義 (道徳科) 事例8 P.88		
	家族・家庭生活、衣食住の生活 (家庭科)		
	目標にふさわしい探究活動 (総合的な学習の時間)		

指導事例 1 生殖に関わる機能の成熟

対象：第1学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第1学年 保健体育科「心身の機能の発達と心の健康」

心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

(ア) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。

(イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

(ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。

(エ) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

本単元の内容は、身体機能の発達について、また、生殖に関わる機能の成熟について、その発育や発達には、性差や個人差があることを中心に学習する。さらに、心身の機能の発達とともに精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスの対処と心の健康についても取り上げている。身体と精神は互いに影響し合うため、この時期の生徒が心身ともに健康な生活を送るためにも重要な内容であることから本単元を設定した。

3 単元計画（11時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1 2	・身体機能の発達について知る。	・器官が発育し機能が発達する時期や発育・発達の個人差について理解する。	- 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともにストレスへの対処法を知っている。 - 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し解決方法を考え、適切な方法を選択しそれらを伝え合っている。 - 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営もうとしている。
3 本時	・内分泌の働きによる生殖に関わる機能の成熟について知る。	・内分泌の働きによる生殖に関わる機能の成熟について理解する。	
4	・生殖に関わる機能の成熟に伴う適切な行動について考えている。	・成熟の変化に伴う適切な行動等について理解する。	
5	・異性の尊重と性情報への対処について理解する。	・自己の性と他人の性の違いの承認や性情報への対処方法について理解する。	
6 7 8	・精神機能の発達と自己形成について知る。	・生活経験などの影響を受けて発達する精神機能や自己の認識の深まりと自己形成について理解する。	
9 10 11	・欲求やストレスへの対処と心の健康について理解する。	・精神と身体の影響、欲求やストレスの心身への影響と適切な対処、ストレスへの対処の方法について理解する。	

4 本時の指導（全11時間中の3時間目）

(1) 指導のねらい

- ・生殖に関わる機能の成熟について理解させるとともに、自分を大切に、異性の体や心について理解し合い、性に関する適切な態度を身に付けることができるようにする。
- ・発育・発達の時期には個人差があることを理解できるようにする。

(2) 学習方法

- ・他者と話し合ったり、ノートなどに記述したり、筋道を立てて伝え合う。
- ・男女の体つきや機能の違い（性差）を図や絵で比較できるようにICT機器等を活用する。

(3) 評価規準

- ・思春期には下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きによる生殖器の発育とともに、生殖機能が発達し、妊娠が可能になることを理解できる。
- ・生殖に関わる機能の発育・発達の時期には個人差があることを理解できる。

(4) 指導上の配慮事項

- ・生殖に関わる機能の成熟の指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。
- ・性の多様性を踏まえ、心の性と体の性が一致しない場合があることに配慮する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準	指導のポイント
導入	1 思春期には体の変化や男女の特徴がはっきり現れてくることを確認する。	○思春期には生殖器が急速に発育し機能が発達することを確認する。		導入の工夫等 ・学びの連続性を意識し、小学校の学習内容を振り返る。 ・生殖に関わる機能の成熟には個人差があることから、他者との比較ではなく大人との比較を考えさせる。
展開	自分の体と大人の体の違いは何か考えよう。			使用する教材等 ・I C T機器を活用し男女の体つきや機能の違いについて示す。 ・性腺刺激ホルモンの働きが分かる資料（教科書等）を活用する。 ・図やグラフ、絵などで脳の下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンについて説明する。
	2 自分の体と大人の体との違いについて考える。	○他者と話し合い、違いについて多くの考えを引き出す。		
	3 思春期の体の変化とホルモンについて理解する。	○思春期頃からホルモンの影響により大人の体へと近付いていくことを理解させる。	●思春期には下垂体から分泌される性腺刺激ホルモンの働きにより生殖器の発育とともに、生殖機能が発達し、妊娠が可能になることを理解できる。	個人差への配慮、個別指導について ・射精や月経が起こる時期には個人差があることを強調して伝える。 ・性に関する個人差や多様性について悩んでいる場合は個別に相談できるような雰囲気作りや関係づくりが大切であることを伝える。
	4 男子の生殖機能について理解する。	○射精（精通）が起こることについて理解させるとともに、個人差があることを伝える。		
まとめ	5 女子の生殖機能について理解する。	○月経（初経）が起こることについて理解させるとともに、個人差があることを伝える。		
	6 生殖に関わる機能の成熟についてまとめる。	○大人の体になっていくことについて精神面についても併せて考えさせる。 ○習得した知識により、異性を理解するためにどんなことを心掛けたいか考えさせる。	●生殖に関わる機能の発育・発達の時期には個人差があることを理解できる。	

指導事例2 異性の尊重と性情報への対処

対象：第1学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第1学年 保健体育科「心身の機能の発達と心の健康」

心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。

(ア) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。

(イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。

(ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。

(エ) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。

イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

本単元の内容は、身体機能の発達について、また、生殖に関わる機能の成熟について、その発育や発達には、性差や個人差があることを中心に学習する。さらに、心身の機能の発達とともに精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスの対処と心の健康についても取り上げている。身体と精神は互いに影響し合うため、この時期の生徒が心身ともに健康な生活を送るためにも重要な内容であることから、本単元を設定した。

3 単元計画（11時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1 2	・身体機能の発達について知る。	・器官が発育し機能が発達する時期や発育・発達の個人差について理解する。	- 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともにストレスへの対処法を知っている。 - 心身の機能の発達と心の健康に関わる事象や情報から課題を発見し解決方法を考え、適切な方法を選択しそれらを伝え合っている。 - 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営もうとしている。
3	・内分泌の働きによる生殖に関わる機能の成熟について知る。	・内分泌の働きによる生殖に関わる機能の成熟について理解する。	
4	・生殖に関わる機能の成熟に伴う適切な行動について考えている。	・成熟の変化に伴う適切な行動等について理解する。	
5 本時	・異性の尊重と性情報への対処について理解する。	・自己の性と他人の性の違いの承認や性情報への対処方法について理解する。	
6 ～ 8	・精神機能の発達と自己形成について知る。	・生活経験などの影響を受けて発達する精神機能や自己の認識の深まりと自己形成について理解する。	
9 ～ 11	・欲求やストレスへの対処と心の健康について理解する。	・精神と身体の相互影響、欲求やストレスの心身への影響と適切な対処、ストレスへの対処の方法について理解する。	

4 本時の指導（全11時間中の5時間目）

(1) 指導のねらい

・ホルモンの働きにより性衝動が生じることが多くなることを理解させ、誤った情報で自他を傷付けることがないように、行動の選択について考えさせる。

(2) 学習方法

・学習資料を活用し、様々な考えを共有しながら話し合いを深め、自分自身のこととして考える。

(3) 評価規準

- ・異性を尊重しようとしている。
- ・性情報に対して、正しい情報を選択できる。

(4) 指導上の配慮事項

- ・生殖に関わる機能の成熟の指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準	
導入	1 本時のねらいを確認する。	○前回の「生殖機能の成熟」を確認し、着替えが、小学生の中学年から更衣室が別になったり、人に見られることの羞恥心が芽生えたりすることを理解させる。		指導上の留意点 ・関心をもたなかったり、羞恥心が少なかったりするなど、個人差に配慮する。 ・性情報の事例については、教科書の事例などを活用する。 ・学級全体やグループなど実態に応じて、様々な学習形態で指導する。
	2 性的関心が高まると性衝動が生じる場合があることを理解する。 3 性衝動のままに行動をすると、相手の気持ちを傷付けることがあることを知る。	○「異性に触れてみたい」などの例を挙げ、性ホルモンによって脳が刺激され性衝動が生じることを理解させる。 ○生徒とのやり取りの中で、性衝動は相手の気持ちを傷付けることがあることに気付かせ、性衝動をコントロールする必要があることを理解させる。	●異性を尊重しようとしている。	
展開	性情報の対応について考えよう。			
	4 性衝動をあおるような性情報の情報源の入手方法について考える。 5 性情報の事例が、必要か不必要か、信頼できるかできないかについて考える。	○生徒とのやり取りの中から、友達や先輩、SNS、インターネットなどが情報源であることを導く。 ○SNS等で知り合った人と会うことになった場合の自分の考えを付箋紙等に記入し、表に貼らせて、考え方を共有させる。	SNS等で知り合った人と会うことになった。 あなたの答えの理由を付箋に書き、自分の考えを貼って示してみよう。 他の仲間との違いを共有してみよう。 必要 信頼できない 信頼できる 不必要	
	6 性情報に惑わされず、安心・安全に生きていくためには何ができるかを考える。	○事例の危険性を伝え、被害に遭わないためにはどのようにすればよいかを考えさせる。	●性情報に対して、正しい情報を選択できる。	
まとめ	7 学習の振り返りをする。	○異性の尊重と性情報の対処について、自他の心身の変化を理解するとともに、自分の言動が自他を傷付けていないか考えるように促す。		

指導上の留意点

- ・関心をもたなかったり、羞恥心が少なかったりするなど、個人差に配慮する。
- ・性情報の事例については、教科書の事例などを活用する。
- ・学級全体やグループなど実態に応じて、様々な学習形態で指導する。

指導事例3 男女相互の協力（合唱コンクールに向けて）

対象：第1学年

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け

第1学年 特別活動「学級活動（2）イ 男女相互の理解と協力」

（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。

2 題材設定の理由

男女相互を理解することや、互いに尊重しながら、学級活動や学校行事に協力して取り組むことは、学校生活の充実につながると考える。男女相互の理解と協力を考えながらこれまでの学校生活を見直し、自らの課題に気付き、改善しようとする姿勢をもたせることで、学級の雰囲気により良いものになると考え、本単元を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価規準
1 本時	・各パート（男声・女声）の特徴や個性について考えることを通して、互いに尊重し合いながら協力する学級を目指そうとする。	・事前に振り返りを分析する。 ・分析に基づき、学級・各パートの課題について話し合う。 ・学級の協力について、個々の課題とこれからの取組について考える。	・友達と積極的にコミュニケーションを図っている。 ・自分の考えをしっかりと伝えている。 ・学級の協力について考え、これからの取組につなげようとしている。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

- ・各パートの特徴を理解した上で、合唱コンクールに向けて、互いに協力しながら積極的に練習に取り組めるようにする。
- ・話し合い活動を通して、自分のできることを考えることができるようにする。

(2) 学習方法

- ・話し合い活動を通して、今、自分に何ができるのかについて、自分の考えを深める。
- ・分析、小グループによる話し合い活動、発表・全体意見交換、まとめの流れの中で、自主的に活動する。

(3) 評価規準

- ・グループで話し合い、男女の協力について自分の考えを伝えている。
- ・学級において互いに協力し合い、より良い合唱をするために、解決方法について考え、判断している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・それぞれのパートがよさを生かすために大切なことを考えさせる。
- ・グループでの話し合いを通して、自分の在り方を自分で決定させる。
- ・課題を共有できるように、毎回の練習後、振り返りシートの分析をリーダー等に行わせる。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 目標達成マップを用いて、現状を確認する。	○事前に集めた振り返りシートの分析を基に発表させる。	
展開	クラスで協力し、よりよい合唱を作りあげるために、どんなことに気を付けて練習していけばよいか考えよう。 2 各パートに分かれて、課題を抽出する。 3 1パート抜いて、歌う。 4 それぞれについて意見を書く。 5 4人程度のグループで話し合い活動をする。 6 発表・意見交換をする。	○付箋紙を準備し、意見を書かせる。 ○上記の内容を意識させて歌わせる。 ○意見を書く際に、パートごとの重要性を考えさせる。 ○残りの練習期間での学級の重点項目を考えさせる。 ○振り返りシートの具体的な取組から選ばせる。 ○学級の重点項目を決めて、今後の取組に生かすことができるように促す。 ○具体的な取組を決めさせて、今後の練習で確認できるようにする。	●グループで男女の協力について話し合い、自分の考えを伝えている。
まとめ	7 個人の実践目標を設定する。 ※練習での具体的な実践を、振り返りシートから考える。	○本時のまとめとして、学級が協力して合唱を成功させるために、自分のできることを考えさせる。	●学級において互いに協力し合い、より良い合唱をするために、解決方法について考え、判断している。

導入の工夫等

- ・振り返りシートを毎回の練習後に集めて学級委員、指揮者、伴奏者、パートリーダーで、次の練習に向けての課題を抽出するなど分析を行う。

使用する教材等

- ・ICT機器（電子黒板）を活用し、全体で目標を共有できるようにする。
- ・目標に向けて取り組むべき事項が分かるワークシート（目標達成マップ）。
- ・毎回の成果や課題が振り返られるワークシート（振り返りシート）。

4人程度のグループの構成

- ※実態に応じてグループ構成を考える。
- ・パートごとに、各一人ずつ入れる、パート別、ランダムに4人選ぶなど。

指導上の留意点

- ・体育祭や文化祭等の行事でも、活用できるようにする。

○年○組 合唱コン「目標達成マップ」

<具体策1> 常に本気で取り組む	<具体策2> 時間を無駄にしない	<具体策5> 相手（クラスメイト）のことを考える	<具体策6> みんなが優勝するという気持ちで協力して歌う
やる気	やる気	団結	団結
<テーマA> やる気	<目標> 優勝	<テーマB> 団結	<テーマD> 自信
<具体策9> 心を込めて、恥ずかしがらず、楽しく歌う	<具体策10> 一人一人が「優勝」する気持ちをもつ	<具体策13> 練習を何回もして、自分のパートをしっかりと歌えるようにする	<具体策14> 全員で歌うこと、声をだすことに恥じない
<具体策11> 練習で1分1秒を大切に	<具体策12> 最後まであきらめずに歌いきる	<具体策15> 誰よりも笑顔で！！	<具体策16> 最高のハーモニーを届ける！！
気持ち	気持ち	自信	自信

【目標達成マップ】

目標達成マップを表にして評価

組合唱コン目標「優勝」

達成のための振り返りカード

印の種類：●、○、△、×

氏名：_____

テーマ	具体策	印	理由	印	理由	印	理由	印	理由
やる気	1 常に本気で取り組む								
	2 時間を無駄にしない								
	3 一つ一つの練習を大切に								
	4 声かけをしっかりと、声を大きく出す								

【振り返りシート】

指導事例 4 性情報への対応・性犯罪被害の防止

対象：第2学年

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け

第2学年 特別活動「学級活動（2）ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応」

（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 思春期の不安や悩みの解決、性的な発達への対応

心や体に関する正しい理解を基に、適切な行動をとり、悩みや不安に向き合い乗り越えようとする
こと。

2 単元設定の理由

性をめぐる現代的な課題の一つとして、「情報化の進展」が挙げられる。周囲の目の届かないところで、不特定多数の人とのコミュニケーションを取ることが可能であり、SNS等を介した性被害が増加している。また、個人が情報を発信することも容易になっており、自画撮り被害等、新たな性被害が深刻化している。生徒を取り巻く性に関する様々な危険から自分自身を守り、性情報に対して正しく判断できるようにしたいと考え、本単元を設定した。

3 単元計画（2時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・学校、家庭、地域と連携した性犯罪防止教室（セーフティ教室）を通して、性情報に対する正しい判断力を身に付ける。	・講師として警察署の方を招き、性犯罪被害の事例や防止策について考える。 ・性情報に関する正しい情報と誤った情報の混在について考える。 ・学校、家庭、地域と意見交換をする。	・興味、関心をもって学習に取り組もうとしている。 ・性犯罪や性犯罪被害について理解している。 ・性情報に対して正しく判断し、性犯罪被害から自分自身を守る方法について考えている。
2 本時	・性犯罪被害の防止について、正しい知識と判断力を身に付ける。	・性犯罪被害について考える。 ・性犯罪被害から自分自身を守る方法について考える。	

4 本時の指導（全2時間中の2時間目）

(1) 指導のねらい

- ・性犯罪被害の原因や背景について理解させる。
- ・性犯罪被害から自分自身を守るためにどのような方法があるのか、生徒同士で考えたり、話し合わせたりすることを通して、正しい判断力を身に付けさせる。

(2) 学習方法

- ・自分の考えを付箋紙などに記述したり、生徒同士で話し合ったりする。
- ・ICT機器等を活用し、生徒の考えや話し合った内容を全員で共有する。

(3) 評価規準

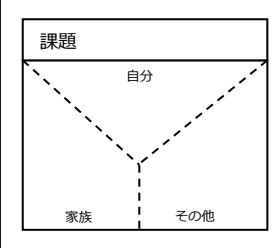
- ・性犯罪被害から自分自身を守る方法について考え、判断している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・性犯罪被害の防止について考えさせる場面では、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。
- ・性犯罪被害の防止について生徒同士で考えたり、話し合ったりする場面では、他者の意見を受け入れ認め合うこと、正しい判断について生徒自らが導けるように配慮する。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 前時の復習をする。 ・犯罪防止教室（セーフティ教室）で学んだことを確認する。	○性犯罪被害の危険性について確認する。 ○性情報に関する誤った認識について再確認する。	
展開	性犯罪被害から自分自身を守る方法について考えよう。 2 性犯罪被害にはどのようなものがあるかを考える。 3 グループに分かれて課題を選択する。 4 選択した課題について、その原因とその被害から自分を守る方法、家族ができること、その他について考える。 5 出てきた考えをグループで共有する。 6 グループごとに発表し、情報を共有する。	○性犯罪被害事例について考えさせる。 ①自画撮り被害 ②異性等を紹介するウェブサイト ○選択した課題が実際にはどんな被害なのか、事例を示しながらグループごとに考えさせる。 ○被害事例に応じて、自分の考えを記入させる。 ○被害の内容について知識や理解のない場合は、個別指導で情報を提供する。 ○模造紙にそれぞれの考えを分類し、貼り付け、考えを共有し、グループごとにまとめてタブレットに入力させる。 ○他者の考えを受け入れ、課題についてクラス全員で共有させる。	●性犯罪被害から自分自身を守る方法について考え、判断している。 [模造紙・タブレット画面例] 
まとめ	7 性犯罪被害から自分自身を守る方法についてまとめる。	○家族との関わりや自分自身の判断によって身を守る方法を考えさせる。	

導入の工夫等

- ・犯罪防止教室で学んだことを、感想等を踏まえて発言させる。様々な意見を引き出す。

使用する教材等

- ・ICT機器（タブレット等）や模造紙を活用し、グループで話し合いをできるようにする。
- ・事例について新聞記事等を活用する。

板書の写真等

- ・性犯罪被害の例を示す。
- ・タブレットの画面を板書に大きく示す。
- ・「SNS東京ノート4（中学生用）」（東京都教育委員会 平成30年3月）を活用することもできる。

個人差への配慮、個別指導について

- ・生徒の家庭環境や実情をあらかじめ把握し、事例について配慮する。
- ・他者の考えを受け入れ、自分の考えと併せながら正しい判断力へとつながるように支援する。
- ・性犯罪被害等で悩んでいたり困っていたりする生徒が個別に相談できるよう声掛けをする。

指導事例5 異性との人間関係を深めるには

対象：第2学年

教科・領域等：特別の教科 道徳

1 教育課程上の位置付け

第2学年 特別の教科 道徳「B 友情、信頼」

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

2 主題設定の理由

思春期を迎える中学生の時期は、性差がはっきりしたり、異性への関心が強くなったりするとともに、意識的に互いを避けたり、間違った理解から問題を生じさせたりすることもある。しかし、互いに理解し合い、共に成長しようとする姿勢をもつことは、これから社会に出て行く上で大切である。各自が異性との関係をどう捉えているかなど、今後の生き方について考えられるようにしたいと考え、主題を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価の視点
1 本時	・異性間の関わりに対する自分の考えを振り返り、異性間においても友情を築き、関係を深め、共に成長しようとする態度を育てる。	・異性間のより良い関係とは何か、それぞれの考えを出し合い、イメージを深めた上で、人間関係を深めていくには、どのようなことが大切か考える。	・異性間の人間関係について、自分のものの見方、考え方を振り返ることにより、異性とも人間としてより深い関係を築くことの大切さについて考えを深めることができる。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

・「異性についての理解を深める」とは、互いに相手の良さを認め合うことである。異性であっても相手のものの見方や考え方を正しく理解し、友情を築き、人間関係を深めることが大切であることは、同性間におけるものと変わりはないため、互いに正しく理解し合い、共に成長しようとする態度を育てる。

(2) 学習方法

・異性間のより良い関係とは何か、様々な場面をイメージし、それぞれの考えを出し合い、互いの考えの違いから学び合う。よりよい人間関係についてイメージを深めた上で、人間関係を深めていくには、どんなことが大切かを考える。

(3) 評価の視点

・異性間の人間関係について、自分のものの見方、考え方を振り返ることにより、異性とも人間としてより深い関係を築くことの大切さについて考えを深めることができる。

(4) 指導上の配慮事項

・導入で使用する事前アンケートについては、学級の実態に即した内容で作成する。
・人権教育プログラム（学校教育編）（東京都教育委員会 平成31年3月）のp83からの事例やp163からの参考資料を参照し、性的指向・性自認に係る児童・生徒にきめ細かに対応する。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価の視点
導入	1 価値への導入を行う。 ・事前アンケートの結果より、友達の考えを知り、自分の考えと比較する。 ・本時のねらいについて確認する。	○小学校時代と比べ、異性との人間関係がどう変化してきているか、事前にアンケートを実施する。その結果を示し、友達の考えと自分の考えを比較させる。 ○クラスの実態から本時のねらいを示し、本時の学習に対して課題意識をもたせる。 ○異性同士が、より良い人間関係を築くには、どうすればよいのか、考えさせる。	
展開	2 一人一人が抱く、異性間の人間関係について、これまでの経験を振り返りつつ、考えを広げる。 ・異性間のより良い人間関係とは、どのような関係か考える。 ・異性間でよりよい関係を築いた先には、どんなものがあるか考える。	○現在だけでなく、今後の人生にも視野を広げ、具体的にイメージを膨らませられるようにする。 ○グループで、意見を分類させ、互いにそれに共感できるか否か、その理由を出し合わせる。 ○グループで出された意見を紹介し合い、どんな場合においても共通するものは何かを考えさせる。 ○異性と関わる上で、自分が得られるものについて考えさせるようにする。 ○個人について、クラスや社会全体について、考えを広げさせる。	●異性間の人間関係について、自分のものの見方、考え方を振り返ることで、異性とも人間としてより深い関係を築くことの大切さについて考えを深めることができる。
	他者と人間関係を深めていくには、どのようなことが大切となるのでしょうか。		
終末	3 今日の授業を振り返る。	○教師の経験を話す。 ○今回の授業で感じたこと、考えたこと、これから心掛けたいことをワークシートに記入させる。	

事前アンケート
・人間関係の変化を感じている生徒が多く、関係の深まりを感じている生徒がいる一方、異性間の隔たりに感じている生徒もいる。その差に何があるのか、問題提起する。

切り返し発問例
・「互いに深くは関わらない」、「干渉しない」ということが「良い人間関係」なのかを発問し、考えさせる。

指導上の留意点
・共感できない意見について、否定するのではなく、なぜ共感できないのか、それを議題としてグループで話し合いを深めさせる。また、学級全体で共有する際、そうした意見を、教師が全体に投げ掛け、議論を広げ、考えを深めさせる。

指導事例 6**自分の命を精一杯生ききる**

教材「キミばあちゃんの椿」(出典：中学校道徳読み物資料集 文部科学省 平成 24 年 3 月)

対象：第 3 学年

教科・領域等：特別の教科 道徳

1 教育課程上の位置付け

特別の教科道徳「D 生命の尊さ」

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

2 主題設定の理由

生命がかけがえのないものであるということについては、小学校の段階からも学んできており、知識としては分かっている生徒が多い。しかし、日々の生活の中で生命について触れ、考える機会が多くない生徒もいる。かけがえのないものであるという認識があっても、だからこそ一度失ってしまえば二度と取り戻すことのできない自分の命を精一杯生きようという思いまでは抱けていない場合がある。生命の尊さというところに考えが及ばず、いじめに発展してしまうこともある。毎日健康で生活できている中では、そのありがたみを感じることもなく生活していつてしまう。そのため、本時の授業を通して、生命のかけがえのなさについて考えさせ、自他の生命を尊重しながら与えられた自分の命を精一杯生きていく態度を育てていきたいと考え、本単元を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価の視点
1 本時	・自分や周囲の生命の尊さを理解し、かけがえのない自分の人生を精一杯生きようとする。	・広瀬淡窓の生き方から、かけがえのない自分の人生を精一杯生きる姿勢の大切さを考える。キミばあちゃんの言う「生ききる」とは、どういうことなのか、それぞれが自分の考えを深める。	・自分の人生をかけがえのないものとし、その人生を精一杯生きようとする気持ちをもっている。 ・他者のものの見方、感じ方から学び、自分の考えを深めている。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

- ・自分や周囲の生命の尊さを理解し、かけがえのない自分の人生を精一杯生きようとする態度を育てる。

(2) 学習方法

- ・祐介の気持ちを追うことを通して、広瀬淡窓の生き方から、かけがえのない自分の人生を精一杯生きる姿勢の大切さを考える。その上で、キミばあちゃんの言う「生ききる」とは、どうすることなのか、困難にぶつかったときに、それをどう乗り越えて生きていくのか、それぞれが自分の考えを深める。

(3) 評価の視点

- ・自分の人生をかけがえのないものとし、その人生を精一杯生きようとする気持ちをもっている。
- ・他者のものの見方、感じ方から学び、自分の考えを深めている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・学級の中に、作中の人物のように、自身や家族の病気で悩みを抱える生徒がいる場合は配慮する。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価の視点
導入	1 価値への導入を行う。 ・今まで「一生懸命生きてきた」か考える。 ・本時のねらいに触れる。	○自分の人生をしっかりと生きるにはどうすればよいか発問する。	
展開	2 教材「キミばあちゃんの椿」を読み、生き方について話し合う。 ・声が震えてしまうほどに、祐介はどんなことを思い、悩んでいたのか考える。 ・「甘かったんだね。」と言った祐介は、どんなことに気付いたのか考える。 ・寒椿のように、これからの人生を「生きる」中で、どんな困難があるだろうか考える。	○教材を通読した後、広瀬淡窓の生き方について、生徒が印象的だったことを板書し、まとめる。 ○祐介のどんな気持ちからくる声の震えなのか、想像させ、考えさせる。 ○キミばあちゃんの話から、祐介が感じ取ったことは何か、考えさせる。 ○生徒だけの話し合いでは、考えが深まりきらないときは、学級全体で意見を共有し、学級全体に問い掛けながら考えを深めさせる。 ○写真を示したり、キミばあちゃんの寒椿に関する言葉を再度取り上げたりし、寒椿のイメージを膨らませる。	
	どうすれば、そのような困難を乗り越えて、しっかりと「生きる」ことができるだろうか。		
	・「生きる」とは、どうすることなのか、困難にぶつかったときに、それをどう乗り越えて生きていくのか、それぞれが自分の考えを深める。	○前向きに生きることの困難さや辛さに触れ、良いことばかりではないことを子供の考えから引き出す。	●自分の人生をかけがえのないものとし、その人生を精一杯生きようとする気持ちをもっている。
終末	3 今日の授業を振り返る。	○教師の経験を話す。 ○学んだこと、考えたこと、これから心掛けたいことをワークシートに書かせる。	●他者のものの見方、感じ方から学び、自分の考えを深めている。

導入の工夫

・誰しもくじけたり、後ろ向きになったりすることはある。常に一生懸命であることは難しい。そういう気持ちに共感する言葉掛けをしつつ、本時で考えていきたいことを伝え、生徒が本時の課題を自分ごととして考えることにつなげる。

板書の工夫

・文字カードや場面絵を作っておき、出来事や印象的な言葉を黒板に貼り、生徒が流れを把握しやすくするとともに教材の内容を振り返りやすくする。

終末の工夫

・教師自身が、今までどんな困難に出会ってきたのか、どのようにそれを乗り越えてきたのか、乗り越えられなかったのかを話す。

指導事例 7 エイズの予防

対象：第3学年

教科・領域等：保健体育科

1 教育課程上の位置付け

第3学年 保健体育科「健康な生活と病気の予防」

健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。

(イ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。

(カ) 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用すること。

イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

思春期は心身に大きな変化が生じる時期である。身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、異性の尊重、性情報への対処など性に関する適切な態度や行動の選択、性の多様性を踏まえ、発達の段階に応じた指導が重要である。また、HIV感染症及び性感染症の増加傾向と青少年の感染が社会問題になっていることから、それらの疾病概念や感染経路について理解できるようにしたいと考え、本単元を設定した。

3 単元計画（7時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・感染症の原因となる病原体や感染の広まり方を理解する。	・感染と発病、感染症の広がりについて理解する。	- 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができる。 - 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 - 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営むことができる。
2	- 感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できることを理解する。 - 感染症から予防する態度を身に付ける。	・感染症を予防するために有効な対策として、発生源をなくす、感染経路を断つ、体の抵抗力を高めることがあることを理解する。	
3	- 性感染症を理解する。 - 性感染症の現状は若年層の感染が多いこと、身体への影響を理解し、性的接触での予防する態度を身に付ける。	・若い世代へ広がる性感染症や性感染症の予防について理解する。	
4 本時	- エイズの病原体と感染経路、特徴を理解する。 - HIV感染が若い世代に増えていることから、予防法を考える。	・エイズの病原体と感染経路、エイズの特徴、HIV感染の予防方法について理解する。	
5	・保健・医療機関の利用について知る。	・健康の保持増進や疾病予防の役割を担っている保健・医療機関とその利用について理解する。	
6	・医薬品の利用について知る。	・医薬品の正しい使用について理解する。	
7	・個人の健康を守る社会の取組について知る。	・個人の健康と社会的な取組との関わりについて理解する。	

4 本時の指導（全7時間中の4時間目）

(1) 指導のねらい

- ・HIVの特徴を知り、理解できるようにする。
- ・HIVの感染予防方法を考えることができるようにする。

(2) 学習方法

- ・資料を読み取り、グループでの対話から答えを考え、導き出す。
- ・資料を読み取り、患者に応じて様々な状況があることを認識する。

(3) 評価規準

- ・H I Vとエイズの特徴を理解している。
- ・H I Vに感染しないための予防法を考えている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・日本において、若い世代のH I V感染者が増え続けていることから、次世代を担う自分たちが、H I V感染症と向き合うことで、正しい知識とともに社会の一員としての自覚をもたせる。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 発問から病気への関心をもち、本時の説明を理解する。	○本時のねらいと、進め方を理解させる。	
展開	エイズの予防について考えよう。		
	2 感染者情報シートから、H I Vの特徴を考え、ワークシートの答え合わせをする。	○グループごとに、ワークシートを活用し、患者の概要からH I Vの特徴を見付けるように促す。 ○解答を照らし合わせながら、解説を加え、理解を深めさせる。	●H I Vとエイズの特徴を理解している。 ●H I Vに感染しないための予防法を考えている。
	3 H I Vの特徴から、感染の予防を考える。	○解答であるH I Vの概要から、感染の予防を考えさせる。	
	4 予防法を知る。	○日常生活では感染せず、体液や血液が傷口や粘膜から感染することを理解させ、予防法の模範を示す。	
まとめ	5 学習のまとめをする。	○理解した疾病概念や感染経路から、正しい行動の仕方（予防法や検査等）についてまとめさせる。	

導入の工夫等

- ・学びの連続性を意識し、小学校の学習内容を振り返らせる。

指導上の留意点

- ・患者によっていろいろな症状や特徴があることを伝えさせる。
- ・ワークシートの答え合わせについては、正しい知識を解説し、習得させる。
- ・指導に際しては、生徒の発達の段階を踏まえること、学校全体での共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮する。

エイズの予防～患者情報からH I V・エイズの特徴を考えよう～

3年 組 番 氏名

人 項目	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
(1) 病名	HIV 感染	エイズ	HIV 感染	エイズ	HIV 感染	HIV 感染
(2) 性別	男性	女性	女性	男性	男性	男性
(3) 感染経路 (原因)	性的接触	性的接触	不明	性的接触	性的接触	性的接触
(4) 感染時期	15 歳 4 月	18 歳 0 月	22 歳 8 月	29 歳 0 月	不明	25 歳 6 月
(5) 発症時期	していない	28 歳 4 月	していない	39 歳 0 月	していない	していない
(6) 発見(認知)時期	18 歳 2 月	28 歳 5 月	24 歳 3 月	40 歳 4 月	20 歳 2 月	29 歳 3 月
	発見(認知)方法	保健所の検査	診察・検査	結婚を機に検査	パートナーにすすめられて検査	保健所の検査
(7) 現在の年齢	18 歳 2 月	29 歳 1 月	51 歳	42 歳 4 月	30 歳 10 月	35 歳 7 月

【情報シート】

指導事例8 大人計画（多様な生き方）

対象：3学年

教科・領域等：特別の教科 道徳

1 教育課程上の位置付け

第3学年 特別の教科 道徳「C 公正、公平、社会正義」

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

2 主題設定の理由

性をめぐる今日的な課題に、「子供たち一人一人が、意思をもって将来のライフプランを考える必要性や多様な性への理解を深める必要性」などが挙げられている。自分の将来に思いをはせるとともに、他人の生き方や在り方を知り、尊重する心を育て、生徒が公正公平な社会生活を営めるようにしたいと考え、主題を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価の視点
1 本時	・自分自身の未来をイメージし、可能性としての思いや考えを表現させる。 ・多様な生き方があることについて理解させ、他者の考えや思いを尊重する心を養い、差別や偏見をもたない心を育てる。	・自分の将来についてイメージする。 ・他者の意見を傾聴し、尊重する。 ・多様な生き方があることを気付かせ、尊重することの大切さを考える。	・将来について自分の考えをもち、友達の考えを聞くことにより、差別や偏見のない社会の実現について考えを深めている。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

- ・他者の考えや思いを尊重する心を養い、多様な生き方があることを学び、尊敬する心を育てる。

(2) 学習方法

- ・授業者が本時のねらいを伝えた上で、自分の将来についてイメージさせる。色々な内容でテーマを決める。
- ・グループで、リーダーが司会進行を務め、一人一人がグループ全員に自分の意見を伝える。筆記具を用意し、グループでイメージマップを作成する。
- ・いくつかのグループの内容を紹介し、少数意見にも注目する。

(3) 評価の視点

- ・将来について自分の考えをもち、友達の考えを聞くことにより、差別や偏見のない社会の実現について考えを深めることができる。

(4) 指導上の配慮事項

- ・個々の家庭環境や状況に配慮する。
- ・いろいろな意見や考えが出るように、友達の意見を否定しないことを事前に伝える。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価の視点	指導のポイント
導入	1 本時のねらいについて確認する。 ・20年後の生活についてイメージする。	○生徒自身が1年後、3年後、5年後それぞれ、どんな生活をしているか考えさせる。 ○20年後の生活や生き方について、どのような可能性があるか具体的にイメージするように伝える。		導入の工夫等 ・本時のねらいを明確にする。
展開	2 グループで、20年後にどのような生活が考えられるのかイメージマップを広げる。 ①模造紙の中央に「20年後の生活」と書く。 ②「20年後の生活」から、浮かぶ項目を書き出す。 ③項目から考えられることを想像し、イメージマップを広げる。 3 イメージマップの中で、自分ならどんな選択が考えられるのかマップに書き込む。 4 様々な考え方があり、自分とは異なる生活があることを知る。	○グループで、リーダーを中心にイメージマップを広げさせる。 ○テーマを共有できるように、適宜、紹介したり、発表させたりする。 ○友達の意見を否定しないことを事前に伝える。 ○いろいろな意見を発表させるようにし、自分とは異なる考えや意見があることに気付かせる。		個人差への配慮、個別指導について ・それぞれの考えや意見について、正解や間違いはないこと、皆の価値観や思いが異なっていてよいことを伝える。
	【イメージマップの例】			
	様々な生活の中で、差別や偏見のない社会の実現のためには、どんなことができるか考えよう。			指導上の留意点 ・イメージマップは項目を自由に書かせ、項目から考えられることを広げさせていく。
終末	5 発問に対して自分の考えをまとめる。		●将来について自分の考えをもち、友達の考えを聞くことにより、差別や偏見のない社会の実現について考えを深めることができる。	
	6 今日の授業を振り返る。	○今回の授業で感じたこと、考えたこと、これからの生き方についてワークシートに書かせる。		

